



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)中部陸運株式会社 大谷倉庫新築工事	BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.1	/5		ふつう		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0	/5		ふつう		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.0	/5		ふつう		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.0	/5		ふつう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上		ふつう 3 点以上	
					がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)		得点	3.1	
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</p> <p>④ガルバリウム鋼板30年 ④天井・鉄骨現し40年、壁・石膏ボード30年、床:コンクリート65年 ④給水汚水雑排水管の主要用途3種についてB以上で、Eは不使用</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</p> <p>⑪自動水栓や節水型便器、擬音装置などを採用 ⑫内装が乾式工法で分別性に配慮、OAフロア採用 ⑬ODP=0.01未満かつGWP=50未満の断熱材を採用</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能</p> <p>Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備</p> <p>3.2 3.2.1 ③ 昼光制御</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔</p> <p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>2 ⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>3 ⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>4 4.1 ⑩ モニタリング</p> <p>4.2 ⑩ 運用管理体制</p> <p>LR-2 1 1.1 ⑪ 節水</p> <p>1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減</p> <p>2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤</p> <p>3.2 ⑬ 断熱材</p> <p>3.2.3 ⑬ 冷媒</p> <p>LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>			
	"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		得点	3.0
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p> <p>⑰耐震クラスA対応 ⑰光・メタルと通信手段を多様化、ネットワーク機器用無停電装置を設置等</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性</p> <p>2.1.2 ⑯ 免震・制振性能</p> <p>2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備</p> <p>2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>2.4.3 ⑰ 電気設備</p> <p>2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>2.4.5 ⑰ 通信・情報設備</p>		
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		得点
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>⑲階高3.7m以上、3.9m未満 ⑲壁長さ比率&lt;0.1</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮)</p>	<p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり</p> <p>3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ</p> <p>Q-3 3 3.1 ⑲ 地域性への配慮、快適性の向上</p>			
	"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点	3.0
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/㉒敷地内温熱環境の向上)</p> <p>■敷地外環境対策 (⑲持続可能な森林から産出された木材/⑲温熱環境悪化の改善)</p>	<p>Q-3 1 ⑳ 生物環境の保全と創出</p> <p>2 ㉑ まちなみ景観への配慮</p> <p>3 3.2 ㉒ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-2 2 2.5 ⑲ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>LR-3 2 2.2 ⑲ 温熱環境悪化の改善</p>			

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)中部陸運株式会社 大谷倉庫新築工事	階数	地上1F
建設地	静岡市郡田原・片山土地区画整理事業地内3街区41、42、46画地	構造	S造
用途地域	工業地域、法22条区域	平均居住人員	25人
地域区分	7地域	年間使用時間	3,600時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年4月 予定	評価の実施日	2021年8月2日
敷地面積	18,160㎡	作成者	木内建設(株)一級建築士事務所
建築面積	12,093㎡	確認日	2021年8月2日
延床面積	12,090㎡	確認者	木内建設(株)一級建築士事務所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安を示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質**

**Q1 室内環境** Q1のスコア= 0.0

**Q2 サービス性能** Q2のスコア= 3.7

**Q3 室外環境(敷地内)** Q3のスコア= 2.2

**LR 環境負荷低減性**

**LR1 エネルギー** LR1のスコア= 0.0

**LR2 資源・マテリアル** LR2のスコア= 3.2

**LR3 敷地外環境** LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。静岡市土地区画整理事業地内の地区計画に適合させる等、良好な景観形成に配慮するとともに室内外の環境にも配慮している。</p>		<p>その他</p> <p>-</p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>-</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせている。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>緑地を設けることにより、良好な景観を形成している。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>-</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>OAフロアを採用するなど、部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される